



晴れ間が続き、朝夕冷え込んで秋らしくなってきた。8月は夏らしい天候に恵まれず、9月は長雨で10月初旬まで続き、まったく不順だった。水戸で見れば、8月で「真夏日（最高気温が30度以上）」は18日しかなく、9月で雨が降らなかった日はたった6日と極端だった。

原因は例年夏に発達するはずの日本の南海上の「小笠原高気圧」の変調。8月はこの高気圧の西への張り出しが弱くて東にとどまり、遅れて9月になってから西へ強まり始めたからだ。

2016.10.16



「気象コンパス」主宰

古川 武彦

深まる秋

このため8月は夏らしい南風を関東地方にも送り込めず、さらに台風も通常の放物線コースと異なって、早めに北上してしまい、上陸も相次いだ。6個の上陸は戦後2位の記録だ。一方、9月に入ると強まった高気圧からの南寄りの風が北の空気の南下を妨げ続け、秋雨前線が居座ってしまった。

先週半ば小美玉市の希望ヶ丘公園を訪れた。500万本といわれるコスモスが一面に咲き乱れ、そよ風に揺れていた=写真。自由に摘み取ってよいという。わが家の花瓶にも秋が来た。

これからは日ごとに気温が下がって秋が深まり、木々も色づき始める。「女心と秋の空」というけれど、秋になると上空の偏西風が強まって雲の流れが早くなり、また寒暖の差も大きくなるので、空が変わりやすいのは確かだ。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)



秋の七草のススキ（オバナ）が白い穂を垂れ、風に揺れている。見上げれば、青空が高く澄んでいる。湿度が低く、水蒸気が凝結しにくいからだ。ちなみにやかんの湯気は雲ができるのと同じ理屈。蒸発した水蒸気が周りの空気に触れて冷やされ、細かい水滴に凝結したものだ。

水蒸気は目には見えない気体だが、その多寡を示す「湿度」の観測には工夫が必要。ご婦人方にとって毎日の髪の毛のセットは大変だと聞くが、湿度に敏感に伸び縮みするからだ。

2016.10.23



「気象コンパス」主宰

古川 武彦

髪と湿度

実は最近まで、湿度は女性の毛髪、しかも金髪を用いた「毛髪湿度計」で測っていた。仕掛けは極めて簡単、数十本の髪の毛の束の両端を引っ張って固定し、中央に力を加える。湿度が高ければ髪が伸びてたわみ、低くければ縮むことを利用する。なぜ金髪かは、黒髪に比べてより敏感に伸縮するからと聞く。上空の気象を観測する「ラジオゾンデ」でも用いられていた。

現在、湿度の観測は、湿度に応じて電気的性質が変化する薄膜（高分子膜）を利用した「電気式湿度計」で自動的に行っている。

大気中の水蒸気は運動に伴って「凝結」して雲が生まれ、雨や雪として地表や海に達するが、再び「蒸発」して大気に供給される。この過程で熱の発生・吸収を伴う。曇りや雨の予報を最も難しくしているのは、この水蒸気存在だ。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)